「土津神社・保科正之公」

徳川四代家綱公を補佐。江戸の玉川上水、上野広小路、芝の運河などを整備。火災に強い町、運河を利用した経済活動の活発化、環境衛生面に配慮し、江戸の繁栄に尽くしました。国指定史跡

碑石

鎮石

表石

亀蚨

「亀石」は、正式には「亀蚨」（きふ）と呼び、北の守り「玄武」を表します。中国北の守り神（東は青龍、西の白虎、南の朱雀、北の玄武）。近くから運びました。

「碑石」（いしぶみいし）は、亀石の上にあり功績を示した碑文で、日本最大のものです。会津若松市河東町から運びました。約三〇トン。

「表石」（おもていし）は奥の霊廟にあります。

「鎮石」（しずめいし）が八角形をした墓で、地下四メートルに埋葬されています。

土津（はにつ）神社

土津神社は、保科正之公を祀る神社。東にある磐椅神社から磐梯山の御神体を分けてもらい建立されて神となりました。寛文十二年（一六七二）八月二十一日、自らの墓所をここに設定。延宝三年（一六七六）に神社が完成。

東北の東照宮と呼ばれましたが、一八六八年八月二十二日戊辰戦争で、猪苗代城代の高橋権太夫が猪苗代城と共に火を放し焼失しています。

正之公　慶長16年（1611）5月7日生。寛文12年（1672）12月18日死去　62歳。

保科正之公は、徳川秀忠と、乳母の侍女で旧北条家臣神尾栄嘉（さかよし）の娘「お静（志津）」の間に生まれた子。お静は秀忠の子を2度身籠り1度目は、お江与への配慮から中絶、2度目が正之となります。徳川家光、水戸黄門とは義理の弟にあたります。

出生や養育に関わっていたのは、武田信玄の次女で江戸城に住んでいた見性院です。江戸の白銀（白金）に住んでいたお静のことを知った見性院は、有泉五兵衛夫婦を遣わし世話をさせ、3歳から養育。見性院は、お江与の嫉妬心からお静をかくまいます。見性院の依頼を受けて世話をしてたのが、信玄の5女松姫の信松禅尼（6女が上杉景勝の室、菊姫）。

図・写真・文　©石田明夫2017　問合せ　TEL・Fax 0242-24-3423　090-1378-8087
メール・ホームページ「考古学から見た会津の歴史」で検索